

要小だより

第11号

要小 学校 発行
発行責任者 小島 正

平25. 10. 8

要小のめざす児童

思いやりのある子
集中して学ぶ子

元気な返事や挨拶のできる子

子育てについて素晴らしい実践を聞いてみよう！

11月1日（金）の学校公開日に、教育講演会が予定されています。今回の講演は、こどもの森保育園の笹沼卓夫氏に講師をお願いしました。笹沼氏の講演は、全国各地で行われ、実践の様子はテレビ番組でも度々取り上げられています。この機会にぜひ笹沼氏のお話を保護者の皆さんに聞いていただきたいと思います。そこで、以前にもお話しましたが、こどもの森保育園や園長の笹沼卓夫氏についての紹介が足りませんでしたので、改めて紹介したいと思います。

まず、こどもの森保育園について紹介します。こどもの森保育園での教育理念は、「時間に追われる教育」ではなく「自然の中でじっくりと人間的な成長をめざす」ところに特徴があるように思います。優れた実践は、数々のテレビ番組で取り上げられ、園児の素晴らしい成長ぶりが全国に放映されています。

こどもの森保育園の歩みの概略

昭和63年4月 職員4名、園児8名で自宅を開放し、家庭保育を始める。
平成3年4月 NHK首都圏ネットワーク「人の花咲く栃木」で園長と保育園が紹介される。
平成4年6月 TV東京ドキュメンタリー人間劇場24作目で「森の中のどろんこ保育園」として紹介される。
平成6年5月 定員60名の認可園でスタート
平成8年8月 TV朝日スーパーサンデー「家族の絆」で紹介される。
平成9年4月 定員90人に変更。現在は、「こどもの森保育園」と「こどもの森こころ保育園」を併設している。また、園長は、笹沼哲郎氏である。

ホームページには、印象に残る言葉が紹介されていました。森にはたくさんの坂があります。駐車場から園庭まで。園庭から園舎まで。そして、保育室からこどもたちの大好きな給食室へ向かう廊下もなめらかな斜面になっています。これは地形上仕方なくそうなったのではなく、すべてこどもたちの発達を促すものです。こどもたちは1日何回この斜面を上り降りすることでしょう。バケツに水をくみ、土を運び、登ったり降りたりします。この斜面を登ったり降りたりするだけで足腰は丈夫になり、しいては心も強くなってゆきます。

笹沼卓夫氏のプロフィール

大学1年の時に始めた塾をきっかけに、幼児教育の大切さを痛感し、保育園を創ることを夢見る。約1年をかけて、所有する山の木を1本1本切ることから始め、保育園を創った。「自然が先生」をモットーに、人が生きる上でとても大切なことを、こども達一人一人の心の奥深い所に育んであげる保育を実践している。

1年の3分の1を保育に、3分の1を講演と文筆活動に、3分の1を百姓に、人が自然と生き、子育てを通して、自分育ちを日々実践し、その中から人の心を打つ、数々の詩や随筆が生まれている。園の給食に使われている野菜は、園長自らが畑で育てたものである。

体力づくり運動が始まる！

今日の業間運動の時間から、本格的な体力づくり運動が始まりました。今日は、1年生が「うんていじゃんけん」、2年生が「的当て」、3年生と6年生が「はしごドッジボール」、4年生が「ストラックアウト」、5年生が「バトンとぼし」に挑戦しました。

これから、5つの種目に順番に取り組んでいきます。

